

仏さまのはなし

郷音
流発行所
茨城東組事務局茨城県常陸太田市
久米町20-1

◇刊行に寄せて◇

茨城東組組長 正念寺 住職 佐竹 知信

昨年六月に本願寺第二十五代ご門主が誕生され、更に来年からは伝灯奉告法要が始まるというこの時期に、組報『響流』が発刊されるご縁に出会えた事を大変有り難く思っております。

さて組報は、文書伝道になるのでしようが、真宗ではこのような文書伝道を親鸞聖人の時代から大事にしてきました。実際に聖人は、常陸国から京都に戻られた後もお手紙(ご消息)を通して、お弟子の方々からの疑問に答え、他力の教えを説き続けられております。そのお手紙を改めて読み返してみますと、聖人が京都に戻られた後に、常陸国に住むお弟子の間で様々な問題が起こり、そのことについて一つ一つ聖人に手紙で問い質しているのがよくわかります。また聖人もそれに対して丁寧な、またある時には厳しく返事をしたためております。そのお手紙に「無礙光仏は光明なり、智慧なり。この智慧はすなわち阿弥陀仏」と言う一節があります。これは「南無阿弥陀仏と称えて更に、無礙光仏と称える事は恐れ多いことで、わざとらしいと言われているが本当ですか」と言う質問への答えにある言葉ですが、聖人は「とんで

もない間違いです」とはっきり言われた後に、阿弥陀仏とは「智慧」であるから、その真実の相(すがた)を知らせようと天親菩薩が力を尽くして説かれた言葉が無礙光仏である、と仰っています。つまり「阿弥陀仏」は、私たちのように形を持っていないわけではなく、暗闇を歩く私を照らし道を示して下さる光となる「智慧」であり、その「智慧」は余すこと無く総てを何もものにも遮られることの無い、その相を表す言葉が「尽十方無礙光如来」だと仰っております。

私たちは、「貪欲(貪り)・瞋恚(怒り腹立ち)・愚痴(真理に暗い)」と言う三毒の煩惱に光を遮られ、四苦八苦の真実に気付かず日々を過ごしております。このような私だからこそ、縁に触れてはその煩惱が顔を出し、鬼の姿にも変わります。そんな私を見捨てずにはおれないと、「智慧の光」となって私に常に降り注いで「我が身を見よ、おまえの姿は、地獄・餓鬼・畜生に堕ちた亡者の姿となっていないか?鬼の姿となっていないか?」と働いて下さっている。その事に私たちは、御恩報謝のお念仏を申させていただき、「南無阿弥陀仏」と日暮らしをさせていただきます。ごさいます。

合掌



お寺紹介

第 1 回

菩提山 浄土院 安楽寺

〒310-0836 茨城県水戸市元吉田町2511



本 堂

承久三（一二二一）年澤田四朗高信の開基。先の大戦で本堂・庫裏などすべて焼失し、現在の本堂は昭和三十八年に再建されました。鉄筋コンクリート造で、設計は丹下健三イズムの流れをくむ阿久井喜孝研究所の設計。屋根は仏さまの救いの掌を表現しています。現在は第二十三世住職、澤田浄真です。

お寺には総代世話人会・壮年会・婦人会があり、門徒推進員とともに教化活動の中心

的な存在です。日曜礼拝は午前七時より。その後、庫裏にて坊守と茶会。皆でミニ話し合い法座の様に語り合います。護法会の年間行事は元旦会に始まり、初法座・永代経彼岸会・降誕会・初心者法話会・歓喜会・秋の彼岸会・おみぎ講・おもちつき講・報恩講と続きます。初法座では法要後、ビンゴ大会や茶会のお楽しみもあり、早春には竹林整備も行います。壮年会・婦人会ともに月一回の例会があり、



庭 園

お勤めの後ご聴聞し作法を学びます。壮年会はお盆期間中「ご本堂参拝声掛け運動」を行い、参拝の方に冷えた缶茶を差し上げています。婦人会は「子どもたちにお寺に親しんでもらいたい」と境内でスタンプラリーを行い、素敵な景品を用意しております。ご本堂にもスタンプを設置することで、子どもとともに若いパパママの参拝も多くなりました。推進員の活動は、一定の評価とご理解を頂いていると自負しております。連続研修会への誘いを課題とし、新たな推進員の誕生を期待するとともに、御同朋の社会をみざす運動として活動に勤しまいたいと思っております。

赤羽之夫・記



親鸞聖人像

はじめての仏事

第 1 回

作法のいろは

上宮寺 副住職 鷲元 明誠



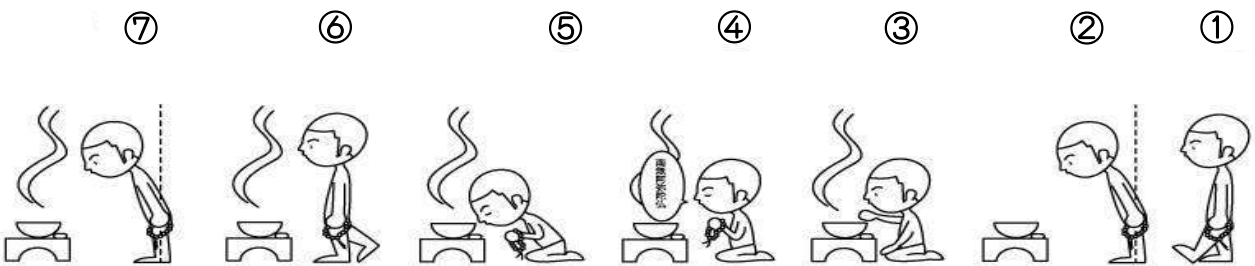
お焼香は、法事や葬儀で行うことが多いと思います。またご自宅のお仏壇でお参りをするときに焚くお線香も、お焼香です。宗派によってお焼香の作法は違います。私たち本願寺派ではどのような作法でお焼香をするのか考えてみましょう。

世間でよく聞くのは、お香の煙にのって故人が成仏するといった、故人の供養のためにお焼香をするということですね。本願寺派では、阿弥陀様の願いの力によって、尊い如来様にさせていただき、お浄土に向かわせていただき、お浄土でありますから、亡くなった後でありますから、亡くなったこの世をさまようということとはございません。

本願寺派では、供養のためのお焼香ではなく、仏前に香りをお供えするという意味で、供香ともいいます。香りをお供えし、お念仏のご縁に遭遇させていだいたことに感謝させていただきますながら、お参りいたしましたでしょう。

浄土真宗本願寺派のお焼香の作法

浄土真宗本願寺派における正しいお焼香の作法を、皆様とごいっしょに学ばせて頂きましょう。



① 仏事の作法の基本として、前進するときには「左足」から。

② 香炉の後ろ二歩手前で、軽く頭を下げます。

③ お焼香。お香を一回だけつまみ、ただかずにそのまま香炉の中へ。

④ 合掌しご本尊を仰ぎ数回お念仏します。

⑤ お念仏が終わると、礼拝します。

⑥ 礼拝が終わわり、立ち上がった後進するときは「右足」から。

⑦ 香炉から一歩下がって、軽く頭を下げて自席に戻ります。



立って行う場合も概ね同じです。お線香でお焼香する場合は、香炉に入る大きさに折り、立てずに横に寝かせます。

他のご宗旨でのお葬儀に参列する時も、何か特別な事を言われない限り、この本願寺派の作法でお焼香をすると良いと思います。

お知らせ

連続研修会のご案内

浄土真宗をみなさんとともに学んでみませんか？

連続研修会は単に浄土真宗のみ教えを教わる事が目的ではなく、浄土真宗のみ教えがあなた自身の生活に生きている必要不可欠なものであることを実感し、生きる意欲を引き出す研修会です。2年を1期とし、現在第14期。数百人のご門徒さんがこの研修を修了されております。次期は来年度よりスタート予定。興味のある方はお近くのお寺まで！

連続研修会（れんけん）今後の予定

第10回 12月4日 場所 浄光寺10時より
 第11回並びに第12回 来年2月4日、5日 場所 筑波グランドホテル

第14期連続研修会も、残すところ数回となりました。皆さまと一緒に修了致しましょう。

茨城東組各寺院報恩講予定

所属寺だけではございません！
 ご自由にご参拝下さい！

寺院名	日 程	講師名	寺院名	日 程	講師名
西光寺(日立市)	9/23	未定	浄光寺(ひたちなか市)	11/9	安藤 聖一 師
光泉寺(ひたちなか市)	10/25	安藤 聖一 師	無量寿寺(鉾田市)	11/11,12	祖父江 佳乃 師
青蓮寺(常陸太田市)	10/29	鷲元 明俊 師	成等寺(ひたちなか市)	11/18	安藤 聖一 師
浄妙寺(ひたちなか市)	10/30	池田 行信 師	正念寺(常陸太田市)	11/18,19	長井 順一 師
善徳寺(常陸大宮市)	10/30	青柳 慶英 師	恵光寺(神栖市)	11/21,22	未定
教圓寺(鉾田市)	11/1	未定	佛照寺(土浦市)	11/23	櫻井 大雄 師
常教寺(ひたちなか市)	11/2	橋本 正信 師	上宮寺(那珂市)	11/25,26	松林 行圓 師
専照寺(ひたちなか市)	11/3	未定	正覚寺(水戸市)	11/28	安藤 聖一 師
専光寺(ひたちなか市)	11/4	小林 覚城 師	常弘寺(常陸大宮市)	11/29	未定
安楽寺(水戸市)	11/7	打本 厚史 師	豊安寺(行方市)	11/29	増田 廣樹 師
明圓寺(石岡市)	11/8	未定	本泉寺(常陸大宮市)	12/10	未定

※詳細につきましては、直接お寺にお問い合わせ下さい。

尚、往西寺(かすみがうら市)・信願寺(水戸市)・清心寺(ひたちなか市)・大覚寺(石岡市)は寺院改修中のため、法要は自坊門信徒のみで行います。

編集後記

正覚大音 響流十方 ～覚りの声は雄々しく、全世界に響き渡る～
 生きる意味が見つらい世の中であって、阿弥陀仏の救いをともに味わいたい。
 今、この組報をお持ちのあなたへ。響き渡れ。(増田 廣樹)